

令和4年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書

1. 令和4年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書
1～ 2ページ
2. 令和4年度 特別養護老人ホームいいたてホーム事業報告書
3～26ページ

ホーム事業報告書（全体）	3～ 7
各家生活報告書（6ユニット）	8～19
医務室事業報告書	20～23
厨房事業報告書	24～26
3. 令和4年度 いいたて在宅介護支援センター指定居宅介護支援事業所事業報告書
27～30ページ
4. 令和4年度 事務室事業報告書
31～32ページ
5. 令和4年度 研修報告（研修一覧）
33～36ページ

令和4年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書

1. 基本方針について

地域と共に快適に過ごせるような福祉の拠点づくりとして、地域貢献や施設等の開放に取り組み、また、安定した基盤づくりのため、職員の育成や人材確保に努めてきた。

(1) 地域貢献

<ul style="list-style-type: none"> ・社宅の一部を「いいのどんぐりの会」に無償貸与 (児童等の第三の教育の場を提供。また、地域の方との交流の場としても活用)
<ul style="list-style-type: none"> ・施設内を交流の場として開放 (新型コロナウイルス感染拡大防止により利用が少なかったものの、県立医科大生等との交流を実施(3.11 災害の経験について))

(2) 職員の質の向上

<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修を何時でも受けられるよう会議室の環境を整えた。(PCの設置等)
<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得の支援 (自由に利用できる部屋を設けると共に、研修費用の支援や勤務体制にも配慮)
<ul style="list-style-type: none"> ・職員が気兼ねなく相談等ができる相談室を設ける。
<ul style="list-style-type: none"> ・自己研鑽のためのボランティア休暇を設ける。

(3) 人材確保

<ul style="list-style-type: none"> ・被災地介護施設再開等支援事業補助金を活用し、職員募集のポスター作成とPRグッズ等を配布。
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページをリニューアル。
<ul style="list-style-type: none"> ・インスタの開設。

2. 事業内容について

- ・理事会、評議員会、監事会、評議員選任・解任委員会の開催状況

理事会年4回、評議員会年1回、監事会年1回開催。

(1) 理事会の開催状況(理事定数6人、監事2人)

回数	開催日	出席(人)		内 容
		理事	監事	
第1回	令和4年 5月30日	4	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 令和3年度社会福祉法人いいたて福社会事業報告について 議案第2号 令和3年度社会福祉法人いいたて福社会収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福社会理事候補者の推薦について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福社会評議員候補者の推薦について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福社会評議員の招集について 議案第7号 社会福祉法人いいたて福社会評議員選任・解任委員の招集について
第2回	9月8日	5	1	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 令和4年度社会福祉法人いいたて福社会収支補正予算について 議案第2号 いいたてホーム災害復旧工事請負契約について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福社会就業規則の一部変更について 議案第4号 福祉サービスに関する苦情解決体制に関する第三者委員の選任について

回数	開催日	出席(人)		内 容
		理事	監事	
第3回	11月1日	6	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 令和4年度社会福祉法人いいたて福祉会収支補正予算について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福祉会育児・介護休業等に関する規則の一部変更について
第4回	令和5年 3月22日	6	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 令和4年度社会福祉法人いいたて福祉会収支補正予算について 議案第2号 令和5年度社会福祉法人いいたて福祉会事業計画(案)について 議案第3号 令和5年度社会福祉法人いいたて福祉会収支予算(案)について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会就業規則の一部変更について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会臨時雇用職員管理規則の一部変更について 議案第6号 特別養護老人ホームいいたてホーム設備機器保守点検委託契約について

(2) 評議員会の開催状況(定数7人)

回数	開催日	出席(人)		内 容
		評議員	監事	
定時	令和4年 6月21日	5	2	議案第1号 令和3年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 議案第2号 令和3年度社会福祉法人いいたて福祉会収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会理事の選任について

(3) 監事会の開催状況(監事定数2人)

開催日	出席(人)	内 容
令和4年 5月11日	監事 2名	令和3年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 令和3年度社会福祉法人いいたて福祉会収支決算について 令和3年度理事会及び評議員会の執行状況について
	講評	全体的に適正に処理されている旨の報告あり。

(4) 評議員選任・解任委員会の開催状況(定数3人)

開催日	出席(人)	内 容
令和4年 6月21日	3	社会福祉法人いいたて福祉会評議員の選任について

・役員研修等

コロナ禍により、理事研修等はオンラインでの参加となったものの、その他の研修は時期的に困難な状況にあったことから、次年度は集合研修を期待したい。

1. 基本方針について

- (1) 新型コロナ感染防止対策により、入居者の生活環境にも少なからずの影響があった。それらを挽回しようと、施設内に飾り付けをしたり、行事の際は職員が仮装したりなど工夫を凝らした一年でした。
- (2) 入居者が必要としているケアを、必要な時に必要な量で提供できるよう、職員一人ひとりに指南したことも事実です。また、新規の入居者も多かった（18人）ことで、意識の向上を図る為にも会議を活用してきました。
- (3) 日々のケアにおいて、多職種間との連携は言うまでもなく必要であった。専門的知識向上のためには、研修も必須でありコロナ禍のため zoom で参加、習得することになりました。
- (4) 入居者の安全に取り組み、特に新型コロナ感染防止対策には職員一人ひとりが知識を深め、研修や感染防止に努めてきましたが、2名の入居者が感染してしまいました。それでもクラスターに拡大することはなく終息したものの、対応する職員の配置に苦慮したことも事実です。
- (5) 感染症が危惧されることから、全体で行う行事は縮小となりましたが、個別に楽しめるような編み物や塗り絵、本の読み聞かせなどで一緒の時間を過ごすことができました。
- (6) 今年度は自発的に広報委員を発足してくれた職員もいて、若さと前向きな姿勢を応援しているところです。具体的には「茶団夢」の発刊継続と SNS（インスタグラム）で家族への近況報告。また、当施設の情報公開も兼ね職員募集活動にも働きかけていく予定です。

2. 具体的な取り組みについて

(1) 生活・環境面

取 組	具体的な内容
1. 居心地の良い環境づくり	1-① 外出や交流制限の中でも、生活の中に居心地の良さが感じられる環境づくりに努めてきた。 <ul style="list-style-type: none"> • 入居者の居場所作り 手作りの鳥居を製作したり、共用スペースを活用した季節毎の設えをしてきた。 • エアコンや床暖房、加湿器で室温や湿度の調整 節電に努めながらも、過ごしやすい環境作りをしてきた。 • 臭いのない施設づくり 排泄物を新聞紙で包む処理と換気。また、空気清浄機の活用や入居者の口腔ケアを徹底することで空間消臭ができた。 • 寝具を工夫することで寝心地の良いベッド環境づくり

<p>2. 生活リズムの継続</p>	<p>本人に適した枕や体位交換用クッション、マットレス等を提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 感染予防対策 職員の出勤時、検温・手洗い・うがい・手指消毒・マスク着用。 また、共有の場所や手すり等の消毒掃除を実施。 <p>2-① 生活習慣と意向を尊重し、就寝や起床時間、食事・入浴・排泄ケアを個別毎に対応。</p> <p>② 食事：食べられるタイミングに合わせて提供してきた。</p> <p>③ 排泄：パターンの把握と排泄用品の選定を行ってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 意向の尊重とプライバシーに配慮した介助に努め、また、トイレでの排泄に取り組んできた。 • 水分摂取と排泄の形状や下剤の調整で、スムーズな排便環境を整えることができた。 <p>④ 入浴：体調に合わせた入浴形態と環境を整え、気持ちの良い入浴をできるようにしてきた。(ユニット内にある家族風呂、リフト式機械浴、チェアインバス等の使い分け。)</p> <ul style="list-style-type: none"> • お風呂の日を設けてきた。(ゆず湯や菖蒲湯の提供により香りも十分に楽しんで頂けた。) • 体格や皮膚のもろさを考慮し、入浴もリフトを使うなど前向きに取り組んできた。(現在も3人の入居者に対応)
<p>3. 家庭的な雰囲気づくり</p>	<p>3-① 入居者とのコミュニケーション 入居者と会話する時間を増やし信頼関係を築いてきた。</p> <p>② 誕生日祝の継続と家族へのお便り</p> <ul style="list-style-type: none"> • 入居者の誕生日に家族へ連絡。面会等で繋がりを大切にしてきた。誕生会は、厨房手作りのケーキでお祝いできた。 • 家族へのお便りを年3回、近況を報告。(手紙や写真の送付等) <p>③ 食卓を囲み一緒に食事</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現在、感染症が危惧されることから、入居者と一緒に食事することが叶わず、もどかしい思いをしている。 <p>④ ご家族との面会 リモート面会、若しくはガラス越しの面会であり、対面は未定。</p> <p>⑤ 施設内でも季節を感じられるような工夫をしてきた。 畑作り(収穫時期には入居者と楽しく調理)。季節行事(団子さし、柏餅作り、枝豆取り、フキの皮むき等を和気藹々としてきた)。</p>
<p>4. 社会との繋がり</p>	<p>4-① 計画はあったがコロナ禍により断念。(外出支援、ボランティアの協力、認定こども園・までい学園との交流等が行えませんでした。)</p> <p>次年度は、コロナ感染対策を取りながら、安全性が図れた上で、少しでも社会との繋がりを検討して行きたいと思っております。</p>

(2) サービスの質の向上

取 組	具体的な内容
1. 重度化ケア	<p>1-① その人らしい最期を迎えられる（看取り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 残された時間の支援を、家族と共有することができた。 ・ 最期まで口から食べられる思いを大切にしてきた。（好きな物を一口でも食べて頂くことができた。） ・ 入浴については、看護師の協力もあり可能な限り励行。 ・ 口腔ケアを徹底してきた。（口腔内の洗浄や喀痰除去等の清潔保持に努め二次的感染を防いできた。） ・ 寝具は肌触りの良い軽い物を選び、好きな音楽を流し、温かく見守ることができたと思います。
2. 自立支援	<p>2-① レクリエーションへの参加や生きがいつくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍であったものの、小規模でレク体操や趣味の活動（塗り絵や展示作品づくり等）を実施してきた。完成した展示作品等は村文化祭に出品。 ・ 生きがいつくりの一環として、個々の機能に合わせた日常生活の役割（洗濯たたみ、おしぼりづくり、食事配膳のお手伝い等）を提供してきた。

(3) 人材育成

取 組	具体的な内容
1. 職員育成	<p>1-① コロナ禍であり、オンラインでの研修が主となった。 令和4年度研修一覧のとおり参加してきた。</p>
2. 会議、委員会の充実	<p>2-① 職員が各委員会に所属、専門的知識を習得し、具体的なケアに取り組んできた。（委員会が中心となり改善や向上に繋げるため、適宜、会議や委員会を開催してきた。）</p> <p>ア) 食事、口腔ケア委員会（口腔内の衛生や、食事を美味しく食べて頂けることの工夫等について取り組んできた。）</p> <p>イ) 事故防止対策及び感染防止委員会（リスクマネジメントと感染予防等に力を入れ、生活が安全に継続できるよう取り組んできた。）</p> <p>ウ) ケア向上委員会（ケアの提供が適正に行われているか否か、また、褥瘡ゼロと予防についても取り組んできた。）</p> <p>エ) 設備・環境委員会（災害時の備品準備と、即対応をできる体制に努めてきた。また、3.10に防災の日として救急の勉強会や備蓄品の確認、発電機の稼働、災害発生時マニュアルの確認等を行ってきた。）</p> <p>オ) 身体拘束・虐待防止委員会（身体拘束や虐待が行われていないか定期的に確認、安心して日常生活が送れるよう取り組んできた。）</p> <p>カ) 広報委員会（機関紙の発行やSNSの発信を行ってきた。）</p> <p>キ) 行事・レク委員会（季節の行事や祝ごと、また、日常のレクリエ</p>

	<p>ーションを楽しんで頂けるよう、計画的に実施してきた。)</p> <p>ク) 安全管理体制委員会 (危機管理や有事に備え、事業が継続できる体制について取り組んできた。)</p> <p>2-②会議の充実</p> <p>ア) 家長会議の充実 (月 1 回開催)</p> <p>リーダーとしての自覚を持ち、職員育成にも取り組めるよう意識づけしてきた。また、各家の動向や情報の共有化にも努めてきた。</p> <p>イ) ケア会議の充実 (適宜)</p> <p>医務とケアマネジャーを中心に、ケアプラン計画や見直しを行ってきた。</p> <p>ウ) 家内会議 (月 1 回)</p> <p>情報の共有や職員同士のコミュニケーションを図り、質の高いケアの提供を目的として開催してきた。</p>
--	--

3. 入退居等について

(1) 令和4年度 月別入退居者数 (介護報酬請求人数)

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居者数(人)		3			3	1	2	1	2		3	3	18
退居者数(人)			1	4		1	2	2	2	2		3	17
月利用数(人)	44	47	47	46	45	46	47	46	46	44	45	48	

(2) 令和4年度 要介護度男女別利用状況 (介護報酬請求人数 62 人 (男性 9 人、女性 53 人))

要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男 性 (人、%)	0	0	2	4	3	9 人 (14.5%)
女 性 (人、%)	0	0	18	22	13	53 人 (85.5%)
計 (人、%)	0	0	20	26	16	62 人 (100%)
介護度比率 (%)			32.3%	41.9%	25.8%	100%

(3) 年齢男女別状況 (R5.3.31 現在の入居者数)

	~64 歳	65~69	70~79	80~89	90~99	100 歳~	計
男 性 (人)	1	0	0	3	1	0	5 (11%)
女 性 (人)	0	1	1	10	23	5	40 (89%)
合 計 (人)	1	1	1	13	24	5	45 (100%)

(※ 入居者数 45 人、最高齢者 107 歳、最年少者 62 歳)

4. 年間の主な行事

5.8	母の日	女性入居者へ職員手作りのキーホルダーをプレゼントしました。昼食は、行事食で母の日に感謝し美味しく頂きました。
5.21	柏餅作り	西棟、北棟に分かれ、柏餅を入居者と一緒に作りをしました。入居者はとても慣れた手つきで餡を生地で包んでいました。また、蒸しがかった柏餅は午後のおやつに皆で美味しく頂きました。
5.28	フキの皮むき	慣れた手つきでフキの皮むき、大きな鍋で茹であげました。茹で上がったフキを目の前で炒め、「味は甘い方がうまいんだ」とのアドバイスを頂き、美味しそうなフキの炒め物が出来上がりました。
6.19	父の日	男性の入居者へ、母の日と同じキーホルダーと表札をプレゼントしました。（表札に自分の名前を見つけ微笑んでいました。） 昼食は、握り寿司で、とても嬉しそうに頬張っていました。
6.2～4	しょうぶ湯	個浴や機械浴時に、しょうぶを浮かべ、季節感や香りを感じて頂き、「しょうぶ湯」の由来等を話していました。
7.7	七夕	入居者と一緒に七夕の吹流しをつくり、西・北棟に飾りました。それを「綺麗だな」「大きいな」と眺めていました。また、短冊には思い思いの願い事を書いて飾りました。昼食は、そうめん弁当で暑さを吹き飛ばしました。
9.18	敬老会	コロナ感染予防に留意しながら、西棟ホールにおいて、職員手作りの敬老会を開催。100歳以上（6人）の方を紹介。また、職員による大黒米の披露や、昼食は、各家に戻り敬老祝膳を美味しく頂きました。
9.25～	作品づくり	村の文化祭に作品を展示するため、リースづくりに励んできました。
10.8	ドライブ	大雷神社大祭の準備している様子や、自宅の様子を車窓から懐かしそうに眺めていました。久しぶりの外出ということもあり、参加した皆さんは大喜びでした。（参加者17名）
12.25	クリスマス会	感染予防のため、今回は、職員手作りのソリに乗ったサンタやトナカイが各ユニットを回りプレゼントを配りました。昼食は、食べ易い軟らかいハンバーグ等を頂きながら、クリスマスの雰囲気を楽しみました。
12.28	もちつき	コロナ感染拡大防止のため、一同に会しての餅つき会は行わなかったものの、厨房からお餅（餡、じゅうねん、汁餅等）が提供され、美味しく頂きながら年の瀬を感じていました。
1.4	新年会	コロナ感染拡大防止のため、新年の顔合わせは中止。 年末に西棟ホールに鳥居を設置。そこで一年の願い事を絵馬に書き飾りました。 神社名は「一笑満金神社」（これからも生涯笑って過ごせますように）と名付けました。昼食は厨房からの祝い膳が提供され、皆で美味しく頂きました。
1.14	団子さし	各ユニット内で一緒にみずの木に団子をさしました。作業を終え、ティータイムには、みたらし団子を食べながら飾り付けた団子さしを懐かしそうに眺めていました。
2.3	豆まき	今年の年男年女（入居者1名、職員5名）が、各ユニットを回り、豆まきをしました。入居者は、鬼に扮した職員に豆を一生懸命投げ、笑いを誘うなど大変盛り上がりしました。
3.3	ひなまつり	ひな壇の前で一人ひとり着物を纏い記念撮影をしました。 昼食は、厨房職員による握り寿司を食べながら、「花より団子」の気分で、とても満足していました。
毎週日曜日／毎週木曜日		手作りおやつで喫茶タイム／音楽療法
月1回（月末）		避難訓練を実施

令和4年度 ひだまりの家 生活状況報告書（西棟）

1. 家目標と方針について

- (1) 認知症状のある方でも心を落ち着かせて暮らせる“居場所”づくりに力を入れてきました。（気の合う入居者同士の席替えや、フロア内にテレビと炬燵を2か所設け、寛げる居場所を提供してきました。）
- (2) 入居者を深く理解するため、職員間で情報を共有しながらケアに繋げてきました。（翌日の出勤者でも分かり易いよう、申し送りノートの記入方法も工夫してきました。）
- (3) 普段からの体調の変化や、些細な行動の変化に気付き多職種間と連携を取りながら、その人らしい最期を迎えられるお手伝いしてきました。（看取りがこんなにも難しいと痛感させられた一年でもありました。）

2. 入居者の状況（令和5年3月31日現在）

《入居者数》

入居者数	最高齢者	最年少者	平均年齢
7人	107歳	84歳	91.7歳

《要介護度の内訳》

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	2人	4人	1人	3.86

《認知のある方の状況》

軽度が2人、他5人については中度～重度。

3. 具体的内容

(1)生活	<ul style="list-style-type: none"> ① 入居者に晴れ着を着て頂き誕生会を行うことが出来ました。 ② 毎日できるお手伝いとして、洗濯物たたみや新聞折など行って頂きました。洗濯物のたたみ方一つにしても其々に個性や拘りがあり、一人ひとりの持ち味を知ることが出来ました。 ③ コロナの影響で行動を制限され、室内で過ごす時間が多かったため、精神的に不安定になる方もいたように思います。身体を思いっきり動かせる時間をもう少し増やして行けば良かったと思いました。 ④ 情報共有をしっかりと行ってきたことで、個々を理解でき、チーム全体でケアに取り組むことが出来ました。 <p>【面会状況】 （延人数33人、面会最多者6回）</p>
(2)食事	<p>機能低下により、随時、食事内容の見直しを行い、食べ易い食事形態のものを提供することが出来た。また、嚥下機能に合わせゼリー食や栄養補助食の提供など安全な栄養管理に努めてきました。</p> <p>【食事形態及び介助状況】</p>

	<p>食事形態 （軟食2人、キザミ食2人、ゼリー食2人、経管栄養1人） 食事介助 （全介助2人、一部介助2人、自立3人）</p>
(3)入浴	<p>① 個々の状態に合わせ入浴形態の見直しを行ってきました。 その時の状態に合わせ、入浴形態を見直しながら最期まで安楽に入浴して頂くことが出来ました。</p> <p>② 時節に合った入浴剤を使用、季節感を感じられるよう努めてきました。 夏場は湯上り後、すっきり・さっぱり感があるものを、冬場は温かさが続く物を選んできました。</p> <p>【年間入浴者数】 （延回数：個別浴 546回、機械浴 190回）</p>
(4)排泄	<p>① 排尿・排便チェック表を活用、個々に合ったパットやオムツを選定してきました。 個々の排泄時間を把握することで、交換時間やトイレ誘導を行えるようにしてきました。</p> <p>② 医務と情報共有しながら、状態に合わせ食物繊維を利用することにより、排泄環境を整えることが出来ました。</p> <p>【排泄介助】 （トイレ介助者3人、オムツ交換者4人）</p>
(5)認知症ケア	<p>① 情報を共有するため、申し送りノート以外にも、細やかに記したメモ帳をつくるなど、より入居者を理解することで、前向きなケアに取り組むことが出来ました。 ケアに対しては、一人で悩まずチーム全体で検討して行くことで、良いケアを提供できたと思います。</p> <p>② より多く関わることで、自然に会話が生まれ、馴染みの関係をつくることが出来ました。</p> <p>③ 一人ひとり状態が違うため“今、して欲しいこと”を、表情や言動から判断することの難しさを痛感しています。</p> <p>④ 毎日が勉強です。（人のお手伝いをすることの難しさを学ばせて頂いています。）</p>

令和4年度 めくもり家 生活状況報告書（西棟）

1. 家目標と方針について

- (1) 家庭の延長と感じて頂けるような環境づくりに努めきた。施設であっても出来ることは提供してきた。(出来ることを引き出すことの重要性も学びました。)
- (2) 車椅子を操作できる方の自立性を尊重しながら、一方では事故を未然に防ぐ工夫と洞察力が求められた一年でもありました。
- (3) 介助業務が優先となってしまう場面も見られたが、チームワークを大事に、入居者ありきの時間の過ごし方を目指してきた。
- (4) 気持ちよく過ごして頂くため、日頃できない所の掃除や居室の整理整頓を行い清潔な環境づくりにも心掛けてきた。
- (5) 体調管理は勿論、急変時の対応や災害時の対応など各種マニュアルを頭に入れ対応すべく、家内会議だけでなく、救急時の対応や事故発生防止委員会等で勉強しています。

2. 入居者の状況（令和5年3月31日現在）

《入居者数》

入居者数	最高齢者	最年少者	平均年齢
7人	103歳	80歳	89.4歳

《要介護度の内訳》

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	2人	3人	2人	4.0

《認知のある方の状況》

軽度が1人、他6人については中度～重度となっている

3. 具体的内容

(1)生活	<ul style="list-style-type: none"> ① 感染予防対策に努め、加湿や換気・室温を管理し体調管理を行ってきた。レクリエーションやカラオケなどの楽しみ方については、場所をホールから家内のスペースに変えて行ってきた。逆にこじんまりしたことでの楽しさもあった。 ② 入居者毎に担当が決まり、家族との連絡調整も事なきを得た。 ③ コロナ禍で、窓越しの面会となっているにも拘わらず、来て頂いたご家族に感謝したい。(ただ、私たち職員は家族の代わりにはなれないとも感じました。) ④ 入居者を思っでの声かけが、行動をせかすようになり、待てない援助をしてしまうことがあった。上手く伝えられる職員を手本とすることで解決の糸口が掴めてきています。 ⑤ 在宅酸素療法を導入し生活を送っていた方がいます。心配していたチューブのトラブルもなく、全ての職員が扱いに慣れたことはいい経験になっ
-------	---

	<p>たと思います。</p> <p>⑥ あったかい環境づくりのために、一緒に植木の手入れをしたり、花を活けることもできた。</p> <p>【面会状況】 (延人数 68 人、面会最多者 14 回)</p>
(2)食事	<p>① 食事形態や摂取のタイミングを、入居者に合った提供が出来、また、食事を摂る姿勢や咀嚼、誤嚥にも注意し安全な食事提供ができたと思います。</p> <p>② 水分量と排泄のイン・アウトを把握し、考察することも学んだ。</p> <p>③ 経口摂取がなかなか進まない方には、基本どおり「好きなものを、食べられる分だけ」と考え、本人が満足できる環境から支援してきた。</p> <p>【食事形態及び介助状況】 食事形態 (軟食 2 人、キザミ食 1 人、ソフト食 2 人、ゼリー食 1 人、経管栄養 1 人) 食事介助 (全介助 2 人、一部介助 2 人、見守り 3 人)</p>
(3)入浴	<p>① 機械浴対応の入居者を 3 人体制で行っていたが、リフトを導入したことにより 2 人体制で行えています。</p> <p>② 臀部の摩擦を考慮し、エアークッションや浴槽内に椅子を入れて対応。それでも皮下出血ができてしまう方には、軟らかい布で保護クッションを作り対応してきた。</p> <p>③ 皮膚乾燥予防は、個人に合ったボディークリームや保湿クリームを使用してきた。また、皮膚トラブルでは看護師に報告、ワセリンや軟膏を塗るなどスキンケアにも努めてきた。</p> <p>【年間入浴者数】 (延回数：個別浴 320 回、機械浴 351 回)</p>
(4)排泄	<p>① 排便コントロールについては、快適な排便を促すため看護師と連携し、下剤の時間や日にちなどを調整してきた。</p> <p>② 排尿の量に合わせたパットの選定が出来た。夜間帯の尿量については、他の家職員からの助言もあり、パットの見直しに繋げることも出来た。今後も、気兼ねなくアドバイスをし合えるようにしていきたい。</p> <p>③ 状態が悪い方に対しての体交時間や介助方法、クッションの当て方、パット変更の有無などについて、改善に努めてきた。</p> <p>【排泄介助】 (トイレ介助者 5 人、オムツ交換者 2 人)</p>

令和4年度 やすらぎの家 生活状況報告書（西棟）

1. 家目標と方針について

- (1) 今年度は亡くなられた方が3人いました。もちろん、何度経験しても慣れることはありません。この日が最期の日だと思ってお世話ができたかと自問することもありました。
- (2) 小さな変化にもいち早く気づき、情報を多職種間と共有することで、安心して過ごして頂くことができたのではないかと思います。
- (3) 個々に合わせた時間や内容で対応できるよう、申し送りの徹底に心掛けてきましたが、言葉で伝えることの難しさや、統一したケアを行うことの大切さを知ることができた一年でもありました。

2. 入居者の状況（令和5年3月31日現在）

《入居者数》

入居者数	最高齢者	最年少者	平均年齢
7人	102歳	68歳	88.7歳

《要介護度の内訳》

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	1人	5人	1人	4.0

《認知のある方の状況》

軽度が4人、他3人については中度～重度となっている

3. 具体的内容

(1)生活	<ul style="list-style-type: none"> ① ラジオ体操やパタカラ体操に取り組み、習慣として行うことが出来た。 ② 家で野菜を育ててきたものの、一緒に手入れや収穫をすることができなかったことが残念でした。 ③ お手伝いができる方の役割として、洗濯たたみや配膳を毎日行って頂くことで、生きがいと健康維持にも繋がった。 ④ 在宅酸素について、チューブの取り扱いに慣れるなど、トラブルもなく良い経験になった。 ⑤ 外気浴に取り組むことがなかなか出来なかったが、施設内を散歩したり歌を歌ったり、個々に合わせメリハリのある生活を送って頂く事ができた。 ⑥ 家会議では、全員が意見を出し合うことで、ケアの向上に繋がり、共に協力しながら提供することができた。 <p>【面会状況】 (面会延人数 65人)</p>
(2)食事	<ul style="list-style-type: none"> ① 体調に合った食事内容や摂取状況を検討。また、変化があった際は臨機応変に対応できたことで、食事を美味しく頂く事が出来たのではないかと思います。

	<p>② 食前体操を一緒に行うよう心掛け、継続してきたことから口腔機能維持に努めることができた。</p> <p>③ 家料理や中庭での食事会が殆ど出来ていなかったなので、次年度は季節毎に計画を立て、食べる楽しみを味わって頂きたいと思います。</p> <p>【食事形態及び介助状況】</p> <p>食事形態 (軟食5人、キザミ食1人、経管栄養1人)</p> <p>食事介助 (全介助1人、一部介助1人、自立5人)</p>
(3)入浴	<p>① 体調や皮膚状態に合わせて入浴方法を検討。個浴利用の場合、負担なくゆったりと入浴して頂くため2人対応で行ってきた。</p> <p>② 特浴でも流れ作業にならないよう、余裕を持って介助を行うことで、入浴中の会話も増え、ゆったりと入浴して頂くことができた。</p> <p>③ 内出血等が出来やすい方への対応として、シャワーチェアの選択や器具等にカバーをすることで予防に繋げることが出来た。</p> <p>④ 乾燥性皮膚トラブルがある方は、保湿クリーム等を入浴後に塗布することで緩和を図っていますが、まだ、改善には至ってないため経過観察が必要。</p> <p>【年間入浴者数】</p> <p>(延回数：個別浴 384 回、機械浴 297 回)</p>
(4)排泄	<p>① 尿臭対策では、細目な衣服交換や消臭スプレーを利用。また、パットの選定をすることで尿臭軽減に努めることができた。</p> <p>② 個々の尿量を把握し、早急に尿量に合ったパットの見直しを行うことで、皮膚トラブルを防ぎ、不快感の軽減にも繋ぐことができた。</p> <p>③ 声掛けを工夫し、「自分でできる」と感じて頂けるような対応をしてきた。また、見守りを強化することで転倒の予防にも繋げることができた。</p> <p>【排泄介助】</p> <p>(トイレ介助者3人、オムツ交換者4人)</p>
(5)認知症ケア	<p>① 言動の意味を理解し、一人ひとりに合わせた声掛けに心掛けてきた。</p> <p>② 癒しになればと、話すお人形やぬいぐるみなどを活用してきた。</p> <p>③ 個々の生活パターンや生活リズムを把握し、一人ひとりにとってのベストなケアとは何かを考え、コミュニケーションをより多くとることで、信頼関係を築けてきたかなと思います。また、時間に追われるのではなく、ゆとりをもって対応してきたことから、落ち着きがでて、安心して過ごせていたのではと感じました。</p>

令和4年度 せせらぎの家 生活状況報告書（北棟）

1. 家目標と方針について

- (1) 新規の入居者についても求めていることに着眼し、介護員同士で議論し合うことが出来た。
- (2) 書類関係の更新において、職員間での意識が高まりその都度まとめられた。
- (3) 認知症の進行、体調の変化等により、今までの意思疎通や介助の仕方が難しくなった際も、職員一人ひとりが入居者に合わせたケアに心掛けて来た。
- (4) 気付く力を更に身につけ、小さな変化にも早期対応できるよう、今後も家内会議やケア会議で情報を共有し、知識を深めていきたい。

2. 入居者の状況（令和5年3月31日現在）

《入居者数》

入居者数	最高齢者	最年少者	平均年齢
8人	97歳	76歳	90.1歳

《要介護度の内訳》

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	2人	2人	4人	4.25

《認知のある方の状況》

軽度が2人、他6人については中度～重度となっている

3. 具体的内容

(1)生活	<ul style="list-style-type: none"> ① 朝一番の声掛けに配慮することと、ラジオ体操を一緒に行うと云うことを継続しました。もたらず効果に実感しています。 ② 新型コロナウイルスに感染してしまった入居者及び職員がいました。隔離された入居者に孤独感を味わうことのないようにと、窓に折り紙を貼りまくった職員に、その気持ちに感動してしまいました。 ③ 終末期に入った入居者についてはいろいろ教えられました。 辛い中でも笑顔を見せてくれる入居者がいたこと。食事が摂れなくなったからと、遅番勤務者がアイスクリームを買ってきてくれたこと。看護師も一緒になりお世話したこと。お風呂に入って良い顔を見せてくれたこと。何度となく家族が来てくれたこと。感謝さえされました。 何もかもが此処でしか経験できないことばかりです。“看取りケア”と一言で言うのはとても簡単です。が、その深さについては無限だと改めて考えさせられました。 ④ レクリエーションや外気浴、塗り絵や計算問題など、機能訓練を兼ね、職員も一緒に楽しめるよう心掛けてきた。次年度も個々に合った余暇の過ごし方を考えていきたい。
-------	---

	<p>【面会状況】 (面会延人数 65 人、面会最多者 12 回)</p>
(2) 食事	<p>① 食前体操の声出しを積極的に行い、機能訓練の意識を持って取り組めた。 ② 家料理は年に 2 回開催できた。誕生日には手作りケーキを前に、職員と一緒に写真を撮りながら楽しむことが出来た。 ③ 畑で野菜作り、ユニット内で漬物や簡単な調理をすることで、収穫と食べる喜びを味わえたと思います。 ④ なるべく自分で食べるよう声掛けしてきた。介助で食べられる方については、食べ物を説明することで、より美味しく頂けたのではないかと思います。</p> <p>【食事形態及び介助状況】 食事形態 (軟食 3 人、キザミ食 3 人、ソフト食 1 人、経管栄養 1 人) 食事介助 (全介助 4 人、一部介助 3 人、自立 1 人)</p>
(3) 入浴	<p>① 好きな音楽と適温で、ゆっくりと入浴してもらえる環境をつくりました。 ② 関節拘縮が強い方の洗身時には、洗身タオルを手袋タイプに変える等、痛みの軽減に努めながら清潔にすることができた。 ③ 体調不良時でも、手浴足浴や清拭等で清潔を保てるように努めてきた。</p> <p>【年間入浴者数】 (延回数：個別浴 270 回、機械浴 430 回)</p>
(4) 排泄	<p>① 日々の排便周期を把握、看護師の協力もあり排便コントロールを行ってきた。スッキリとトイレで出す爽快感を感じてもらうため、応援要請したことしばしば。でも、私たちは何にも代えられない笑顔を見ることができました。 ② 漏れや不快な思いをしない為に個々の排泄アセスメントを行い、パットの選定や当て方、また、介助方法について様々な角度からアプローチし、常にその人に合った最善の方法を話し合いながら決めてきました。</p> <p>【排泄介助】 (トイレ介助者 5 人、オムツ交換者 3 人、オムツ使用からトイレ介助へ移行した人数 1 人)</p>

令和4年度 だんらんの家 生活状況報告書（北棟）

1. 家目標と方針について

- (1) 新規の入居者が4名。その都度施設生活に馴染めるようケアに努めてきた。
- (2) 状態変化を見逃さない事で、早目の対応ができ重症化を防げた。今後も観察を怠らないよう少しの気づきも大切にしていきたい。
- (3) 毎月の家目標に対し具体的に取り組み、反省を繰り返すことで意識向上に繋がられた。

2. 入居者の状況（令和5年3月31日現在）

《入居者数》

入居者数	最高齢者	最年少者	平均年齢
8人	96歳	83歳	91.25歳

《要介護度の内訳》

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	3人	4人	1人	3.75

《認知のある方の状況》

軽度が1人、他6人については中度～重度となっている

3. 具体的内容

(1)生活	<ul style="list-style-type: none"> ① 感染症予防により活動制限がある中、機能低下を防ぐため、家内でのレクリエーションを行うことで笑顔を引き出した。また、編み物や塗り絵、計算問題、間違い探し、カレンダー作成、村文化展に出展する作品を職員と一緒に制作、共に楽しめ達成感もあった。 ② 誕生日の案内や買い物依頼等、ご家族との連絡を十分取ってきた。 ③ 終末期のケアでは3人の方を看取りました。面会制限の中、ガラス越しではありましたが、何回でも面会ができ、また、其々の状態に合った支援が出来たのではないかと思います。 <p>【面会状況】 （面会延人数71人、面会最多者11回）</p>
(2)食事	<ul style="list-style-type: none"> ① 体重増減や嚥下状態に合わせ食事変更ができた。今後も食事が安心して摂れるよう、摂取姿勢や、むせり、飲み込み、嚥下状況に注視していく。 ② 目の前で盛り付け、また、配膳を工夫することで食欲増進に繋がってきた。 ③ 体調管理については、看護師、栄養士、厨房の協力により、食べたい時に提供できるようにしてきました。 ④ 「最期まで好きな物を食べて死にたい、我慢してまでも長生きしたくない」という意思表示を大切にすることを学びました。 <p>【食事形態及び介助状況】 食事形態（軟食4人、キザミ食3人、粗刻み食1人）</p>

	食事介助（全介助 1 人、一部介助 1 人、自立 6 人）
(3)入浴	<p>① 腕や手に内出血ができ易い方の対応として、見守りを強化し、臀部や仙骨部にエアークッション等を使用し保護してきた。</p> <p>② 入浴拒否が見られる方については、声掛けや誘導の仕方を工夫してきた事により上手く対応出来た。今後も気分良く入れる工夫を心掛けていく。</p> <p>③ 好みを知り、また、保湿効果のある入浴剤を使用することで、リラックス効果を図ってきた。入浴後にクリームも使用しスキンケアに努めてきた。</p> <p>④ 機械浴から個浴に変更された方が 2 人。個浴から機械浴に変更された方が 1 人でした。</p> <p>【年間入浴者数】 （延回数：個別浴 411 回、機械浴 280 回）</p>
(4)排泄	<p>① 快適な排便を促すため、医務の協力を得、下剤のコントロールを行い、7 人の方がトイレでの排便を行えた。（1 人は職員 2 人対応でのトイレ介助）</p> <p>② 尿量に合わせたパットの選定を行い褥瘡予防に努めてきた。また、夜間帯は家職員だけでは把握しきれないため、他の家職員からの助言を得ることでパット等の見直しに繋げることが出来た。</p> <p>③ 状態を悪くしている場合は、看護師や上司の指示の下、その状態に合ったケアをすることで改善に繋がった。（体交の見直しやポジショニングの変更など）</p> <p>④ 排尿を出し切る事で、失禁回数が減った事例もあり、パットのサイズを下げる事も出来た。結果、コスト面においても節約出来た。</p> <p>【排泄介助】 （トイレ介助者 7 人、オムツ交換者 1 人）</p>
(5)認知症ケア	<p>① 伝え方に工夫しながら話し掛ける事で、穏やかになって行く姿が窺え、声掛けの大切さを改めて感じた。</p> <p>② 昼夜逆転の対応に手を焼いたのは事実です。ちょっとした間で転倒などのアクシデントもあり対応の難しさを感じている。</p> <p>③ 帰宅願望が見られた時は、寄り添う事で落ち着きが見られた。</p>

令和4年度 こもればの家 生活状況報告書（北棟）

1. 家目標と方針について

- (1) その日の体調や環境の変化、表情や言葉、行動などを見逃さず、さりげなく隣に腰を下し、一緒にお茶を飲むことが出来る介護を目指してきた。
- (2) 食べて元気になって欲しいという気持ちを大切にしてきた。
- (3) 家族との面会は窓越しが続き、何かと欲求不満の事態になっている。それでも寄り添い、興味のある会話や居場所を確保することでリフレッシュを図ってきた。

2. 入居者の状況（令和5年3月31日現在）

《入居者数》

入居者数	最高齢者	最年少者	平均年齢
8人	102歳	62歳	90.3歳

《要介護度の内訳》

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	4人	2人	2人	3.75

《認知のある方の状況》

軽度が4人、他4人については中度～重度となっている

3. 具体的内容

(1)生活	<p>① 3人の看取りに携わりました。そんな時、いつも思うことがあります。“もっとこうしておけば良かったのかも。本当に十分にしていれば良かったらどうか”と。でも、私たちはその人の人生に携わることができる。そう思うと、自分の担当時に最期を迎えて欲しいという気持ちでいっぱいになります。</p> <p>② 事故対策予防として、数多くのヒヤリハットがありながらも、口伝えの連絡となってしまう報告に繋げることができなかった。反省点です。</p> <p>③ 自力でできる方に対しても、つい手伝ってしまう事が多く、現存機能を活かしきれていなかった。“待つ”ことができる介護について、職員同士で話し合い、ちょっとしたさじ加減の違いに気づかされた日々でした。</p> <p>④ 101歳、102歳と超高齢者が2人、他の誰よりも元気で家全体を明るくして下さいました。夏、畑のトマトが赤くなると「食べ頃だ、カラスに食べられてしまうから取って来い」と笑いながら会話が弾み、トマトを口にしては「美味しいな～また作っぺな」と言ってくれたことが嬉しかった。</p> <p>【面会状況】 (延人数43人、面会最多者7回)</p>
-------	---

<p>(2)食事</p>	<p>① 「美味しかった～」との言葉を大切に、嗜好に合った形態で食事提供出来るよう心掛けてきた。</p> <p>② 家料理をする機会が少なかったが、季節の山菜や野菜を頂いた時は、急遽調理し、昼食に一品追加で皆さんに喜んでもらうことができた。</p> <p>③ 食前のパタカラ体操や食後の口腔ケアを実施、誤嚥予防に繋げてきた。また、食事の体位や食器の位置などにも注意し、配膳を目の前で行う事で食欲が沸くよう努めてきた。</p> <p>④ 最後まで口から食べる事の大切さを念頭におき、体調変化時の食事形態の見直しを幾度となく行ってきた。</p> <p>【食事形態及び介助状況】</p> <p>食事形態 (軟食 6 人、ゼリー食 2 人)</p> <p>食事介助 (全介助 1 人、一部介助 2 人、自立 5 人)</p>
<p>(3)入浴</p>	<p>① 穏やかな時間を過して頂けるよう、室温や好みの湯加減で、安全とプライバシーに配慮して対応することができた。</p> <p>② 演歌や童謡、オルゴール音楽などを用いての入浴に心掛けてきた。</p> <p>③ 体調変化により 2 人対応での介助や、介護用品の導入、入浴形態の見直しにより介護側の負担軽減にも繋げる事ができた。</p> <p>④ 個々に合った入浴剤やボディークリーム等で保湿に心掛け、皮膚トラブルにないよう取り組むことができた。また、入浴時に発見する皮膚トラブルについては、直ぐに看護師に連絡、対処してきた。</p> <p>⑤ 季節を感じられるよう年 2 回の菖蒲湯や、ゆず湯を提供することが出来、皆さんに喜んで頂けた。</p> <p>【年間入浴者数】</p> <p>(延回数：個別浴 576 回、機械浴 192 回)</p>
<p>(4)排泄</p>	<p>① スムーズな排便が出来るよう職員間での申し送りや、看護師の協力により行う事が出来た。立位が難しい方についても可能な限り一日一回のトイレ介助を行い、すっきり感に繋がられた。</p> <p>② 羞恥心に配慮しながら、排泄チェック表を活用したトイレ介助や排泄交換が行えた。また、排泄の変化に合わせ、随時パットの見直しや皮膚トラブルを防ぐ対策もしてきた。</p> <p>③ 消臭対策として、職員同士が互いに気付く事により、消臭スプレーや換気等を行ってきた。</p> <p>【排泄介助内訳】</p> <p>(トイレ介助者 7 人、オムツ交換者 1 人、リハビリパンツ使用から布パンツ移行人数 3 人)</p>

1. 年間目標について

持病があっても健やかで快適な毎日が送れるような支援。また、終末期においても施設生活が安心して送れるよう、多職種間との連携・協働体制を深め必要とされる知識・技術についても共に学習し、最期まで寄り添うことができたことに自負しております。

また、新型コロナウイルスについては、これまで同様、感染防止に努めることはもちろん、日々県や厚労省から更新される情報や通知等、漏れなく収集し、知り得た情報は適宜、現場に周知、それらに係る研修会への参加や勉強会を積極的に行ってきた。

2. 入居者及び職員の健康管理

(1) 健康管理

<p>■ 健康管理についてについて (入居者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 健康診断 令和4年5月6日 入居者 44 名受診、内有所見者 35 名。要精検者については診察時に確認している。 ➤ 国が定めるところの新型コロナワクチン接種への取り組み 保健師の指示の下、あづま脳神経外科チームにより執り行われた。名簿の作成から手順、当日の采配を担った。 家族への連絡、同意確認、考えられる副反応については事前に電話連絡で了承を得る。 ➤ 保健所管轄で行われるPCR検査については14名の入居者が対象となった。いずれも陰性。 ➤ 入居者の新型コロナ罹患患者2名、インフルエンザ罹患患者はゼロであった。医師の指示の下、隔離期間を経過し快方。 ➤ 制限される事態が生じた際には、必ず家族へ一報入れ、解除の時も近況と共に面会の案内時に報告している。 ➤ 抗原検査 延べ人数 163名に検査施行。
<p>■ 職員の体調管理について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 介護職員の平均年齢も高く、柔軟性と筋力の低下が目立ち、体調不良を訴える職員が目立っている。 ➤ 腰痛対策については、予防法と介護技術の修得及び、福祉用具の購入（個人購入も含め）腰部にかかる負担軽減に努めた。 ➤ 職員のインフルエンザ罹患患者はゼロ。新型コロナについては濃厚接触者として6名、罹患患者 14 名を確認。が、これまでの知識を生かしたことでクラスターには至らなかった。定められた隔離期間を経過し、医師の指示の下、抗原検査陰性を確認後、復帰している。 ➤ 新型コロナワクチン接種の取り組み 上記、入居者と同様に実施。

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 濃厚接触者の疑いがある職員については、出勤前に抗原検査キットにて検査。陰性を確認後出勤としたケースは4件であった。 ➤ 抗原検査キット 延べ人数 120名に検査施行。
<p>■ 健康診断について (職員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 健康診断1回目 令和4年5月6日 46名が受診。 2回目(夜勤に従事する職員のみ) 令和4年12月6日 25名が受診。共に検診率100% 施設外での健診を受けた職員については、結果の写しを医務室管理とした。 ➤ 職員の3分の1が再雇用となっている。についてはその殆どが何らかの慢性疾患があり、内服薬の処方を受けている。他、それぞれ指摘された事項について、相談と病院受診の必要性を説き対応している。 ➤ 腰痛検査(年2回)については、問診票で調査。半数近くは接骨院などに通院しているのが実情。 “総合的に心配なしと判断”という結果が殆どであった。 ➤ 急性腰痛症、体調不良にて自宅療養を余儀なくされた職員は2名いたが、医療機関の定めた休養を経て復帰に至る。
<p>■ 健康教育について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ コロナ渦ではあったが、オンライン研修のほか、感染予防に努めたうえで外部での研修も行った。 ➤ 自身の体調管理については、個別に相談を受けるなど、健康に関する関心を高めてもらえるよう努めた。 ➤ 感染症委員会には固定した看護師が就き、標準予防策(フルPPE)、ゾーニング等の演習を行った。
<p>■ 受診について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 救急車搬送は1件、介護と看護間の連携と情報を共有することで、比較的速やかな対応ができた。(手遅れという状態は避けられた。) ➤ 経管栄養のPEGチューブの脱落が2度起きている。再挿入するため、臨時の受診を余儀なくされた。 リスクマネジメントからも指摘がある事項である。 ➤ 重症度の高い入居者についても主治医の指示の下、家族への連絡を密にするなど信頼関係を築くことができた。 ➤ 診療については、いいたてクリニックから毎週火曜日に回診と定時薬の処方を受けていた。慢性疾患のみならず、臨時薬や点滴の処方もあり、施設内で寛解できたことは何よりであった。

(2) 疾病の予防(褥瘡対策)

<p>■ 皮膚トラブルの予防</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 早期発見の重要性を周知する。また、速やかな報告が重度化を防ぐことに繋がることも付け加え指示できた。 ➤ 皮膚トラブルがもたらす二次的疾患の特性については、各家会議に参加することで知識を広めることができた。 ➤ 皮膚の状態を健やかにするため、セラミド入り乳液である
--------------------	---

	<p>『キュレル』及び皮膚の状態に合わせベビーオイルまたはアズノール軟膏を個別購入し対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 除圧マット・ムートン・ロンボクッションをはじめとする体圧分散用具の導入をしてきたことで終末期に於いても褥瘡はゼロであった。 ➤ 栄養の大事さ、経口摂取がもたらす効果については適宜ケア会議などで話し合い、関心を深めていった。 ➤ 基礎疾患があり抗凝固剤の処方を受けている入居者については、その内容も周知し、皮膚に与える影響についても指示できた。 ➤ 看護師間で検討し、保護剤や被覆材の選択については互いの情報を共有するにとどまった。次年度は開催される勉強会などに積極的に取り組んでいきたい。
--	---

(3) 終末期ケア

<p>■ 看取りについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「慣れ親しんだホームで最期を」と希望する入居者や家族が多く、16名の方が施設内の自分の居室で永眠され、入院中に亡くなられた方は1名であった。 ➤ コロナ禍で面会制限を強いられる中、最期の面会だけは可能とした。一人で逝かせたくないという職員の思いからでもあった。そして、できるだけ悔いが残らないように配慮することで信頼関係を継続できた。 ➤ 終末期を考慮し、事務・厨房・介護・看護の全スタッフで関わることができた。 ➤ 主治医である本田医師には毎週火曜日の定期診療に加え、深夜早朝にもかかわらず対応していただき、最期の確認と家族への説明をして頂いた。
------------------	---

(4) 健康管理指導等

① 新型コロナウイルスワクチン

1回目	4/27、/28 職員 50名 入居者 40名	2回目	5/18、/20 職員 50名 入居者 39名	3回目	1/18、/20 職員 48名 入居者 36名
4回目	6/23 7/23 職員 46名 入居者 35名 (新規含まず)	5回目	12/15 1/25 職員 37名 入居者 41名		

※上記は施設内で接種行い、時期をずらしての接種はいちばん館にて6名行っている。

※副反応については、おおむね熱発のみ。呼吸困難などの重症者はゼロ。

② インフルエンザ予防接種

11/22	入居者43名 職員48名	施設内で接種。副反応者なし。
-------	--------------	----------------

3. 通院状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
大町病院	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
あづま脳外	0	1	1	1	2	1	0	2	0	0	1	1	10
いいたてクリニック	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3
くまがみ歯科	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
あんざい整形	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
府野歯科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
南相馬市立病院	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	4
延日数(人)	2	1	1	2	4	1	2	3	2	1	2	1	22

4. 入院状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
あづま脳外科 (日)	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	12
大町病院 (日)	0	0	0	0	0	0	0	6	5	0	0	0	11
延日数	0	0	0	0	0	12	0	6	5	0	0	0	23
実人数 (人)	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	3

令和4年度 厨房事業報告書

1. 基本方針

「美味しく食べて にこにこ長寿」をテーマに掲げ、日々変化する食事内容に対応できるよう調理業務のスキルを高め、一人ひとりに寄り添った食事提供で、美味しさと笑顔を届けられるよう努めてきました。

2. 実施内容

(1) 年間実施食数

食 種	経口食	経管栄養	職員食	検食	家族食
食 数					
年間食数	41,980	5,476	9,506	1,095	
1ヶ月平均	3,498	456	792	91	
1日平均	115	15	26	3	
年間総食数	58,057 食				

(2) 年間食材費

食 材 費	特 養
平 均	1人1日 885円
食材費総額	17,123,378円

(3) 年間平均食事栄養量

栄 養 量	熱 量	たんぱく質	脂 質	塩 分	炭水化物
特 養	1,416kcal	56.2g	29g	6.4g	256g

(4) 栄養ケアマネジメント

対象者	対象者	実施期間	見直し期間
特 養	入居者全員	通年	3ヶ月。但し、食事形態に変更があった場合は、その都度随時見直し対応
(令和5年3月31日現在)			
アセスメント結果 入居者 45名	低リスク (問題ない者) 22名	中リスク (瘦傾向・経管栄養者) 21名	高リスク (食事中止、点滴) 2名

(5) 食事形態

入居者45名 (令和5年3月31日現在)						
軟食	キザミ食	ソフト食	ペースト食	ゼリー食	経管栄養	食事中止、点滴
20名	11名	2名	0名	6名	4名	2名

3. 具体的な内容 (評価と課題等)

<p>① 栄養ケアマネジメント ケア会議等に参加、多職種協働により栄養ケア計画を立て、定期的なモニタリングと評価、判定をしながら栄養改善と食事サービスの向上に繋げてきました。また、今後も引き続きLIFE (ソフト) と連動させて行きます。</p>
<p>② 給食管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 口から食べることを大切に、安全で美味しく、また、心と身体の栄養を補える食事を提供するため、各々の嚥下状態に合わせた形態で提供してきました。一方、行事食と比べるとメニューはパターン化しがちだったので今後の課題です。 新型コロナウイルスを含む各種感染症や食中毒予防に努めるなど、衛生管理も徹底してきました。 コロナ禍に於いては、皆で協力しながら感染予防を徹底、何事もなく業務を乗り越えられたことは自信に繋がりました。 有事に備えた食料の備蓄と期限管理。また、非常食訓練を実施してきました。 非常時備蓄：70名、7日分 (食料、飲料水、栄養食品、使い捨て食器類等) 期限管理：非常食品の一覧表作成し管理 (順次献立に取り入れ活用) 非常食訓練：3月10日の施設総合防災訓練に参加。(マニュアルの再確認)

<ul style="list-style-type: none"> 光熱費や食材費の高騰で台所事情も非常に厳しくなっていることから、食材や納入業者、調理方法を見直し乗りきれよう工夫して行きたいと思います。
<p>③ 食の楽しみと工夫</p> <p><行事食></p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で大きな行事ができず残念だったが、そのような状況にあっても、いつもと違う形式で行事食弁当やオードブル等を提供することで、普段より食欲が増していたと感じられたため、今後も季節を感じられるメニューの提供をして行きます。 下処理などは事前から準備し、当日も時間の流れを意識することで、更に段取りが良くなるよう進めて行きます。 職員の家族から、折り紙で季節の行事に合った装飾折りを提供して頂きました。この折り紙を添えることで、各段に季節感と特別感が増し、見た目でも大変喜ばれました。中には部屋に持ち帰る方もおり、回を重ねる度に「とっても綺麗なこと」「今度は何かな」「どうやって折っているの」などと、楽しみされる様子が窺えました。 <p><誕生日会></p> <ul style="list-style-type: none"> 職員の個性も感じられる様々な種類のバースデイケーキを提供できました。これからもSNS等を活用し、流行のものを取り入れ、希望に沿えるようなデコレーション技術も高めて行きたいと思います。 いくつになっても誕生日を祝ってもらうのは嬉しく、涙を流し喜ばれたり、写真を撮る時の緊張感など、そんな気持ちを大切にしたい料理を提供して行きます。
<p>④ 真空調理を取り入れ調理スキルを高める</p> <ul style="list-style-type: none"> 創意工夫とマニュアル作成で作業効率がアップ。また、調味料使用料50%減でコストの抑制と、減塩でも美味しく食べられるよう工夫してきました。更に真空調理と特別な酵素剤を組み合わせることで、刻まなくても軟らかく食べ易く見た目も綺麗な凍結含浸法にも取り組んできました。 真空パックの利用で作業の効率化や食材の有効活用（SDGs）を勧め、また、非常食の活用（BCP）も行っていきたいと思います。 今後も食べ易い調理方法とスムーズなオペレーションについて模索して行きたいと思います。
<p>⑤ 多職種との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 家会議や委員会を通し情報を共有、状況把握に努めてきましたが、確認不足により混乱する場面もあったことから、再確認を徹底して行きます。 現場の声が直に伝わる利点を活かし、早期、課題解決に努めて行きます。 コロナ禍で必要以上の会話が減り、話す機会が減ることで入居者の顔と名前も覚えにくくなっており、如何にコミュニケーションが大切であるか痛感しました。

4. 年間実施行事食

月	行事	月	行事	月	行事
4		8	お盆、夏祭りメニュー	12	クリスマス会、餅つき、大晦日
5	母の日、柏餅作り	9	敬老会、秋彼岸	1	新年会、七草、小正月
6	父の日	10	開所記念日	2	
7	七夕会、土用の丑	11	芋煮会メニュー	3	ひな祭り、非常食訓練、春彼岸

5. 一年を振り返って

- 長引くコロナ禍で全体交流ができない寂しさを感じられ、せめて食事で季節や行事を楽しんで頂きたいとの思いで取り組んできた一年でした。

調理方法については、職員間でアイデアを出し合い、創意工夫で効率を上げ、少ない体制の中でも行事食を提供できるようになった。例えば、こまかく刻んだキザミ食を再形成し見た目にも食欲が湧くような盛り付け、また、真空調理の試作を重ね、機器操

作から味付けまでのマニュアルを作り上げるなど、常に試行錯誤しながら取り組んできたプロセスは大きな財産となりました。

- 高齢化や重度化に伴い、なかなか食が進まない方への対応の難しさを実感しました。そのような中、ターミナルケアにあっても自分の好きなコーラを味わったり、アイスクリームを美味しそうに食べている様子を見て、口から食べる大切さを実感しました。“どのようにしたら食べられるのか” “何なら食べられるのか” など、悩みは尽きないですが、貴重な学びの時間でもあり、また、遣り甲斐も感じられるため今後も多職種協働で取り組んでいきたいと思えます。
- 新しい入居者を迎え、自ら食される方も増えてきました。前施設ではキザミ食だった方が、当施設に入居してから、刻まなくても軟食（普通食）で食べて頂けたり、また、少食で高栄養食品を補食していた方が「お腹がすきました。美味しいです。」と普通食を完食されています。中には毎食の献立をメモする方もおり、その方専用の献立表掲示スペースができるなど、食事を楽しんで頂いています。これらの嬉しい出来事は、看護職員や介護職員との情報共有の成果で、当施設の強みの部分でもあると感じています。
- 次年度はコロナ規制が緩和されると思うことから、皆で集まって行う行事や出張料理等で交流を深めて行けたらと思います。今後、病態対応食も増え、食事内容の要望も多く複雑になって来るとは思いますが、常に職員間で確認し合いながら、情報と技術を駆使し、「食べたい想い」を叶えられるよう努めていきたいと思えます。

令和4年度 いいたて在宅介護支援センター
指定居宅介護支援事業所事業報告書

1. 基本方針について

介護保険の基本理念である「高齢者の自己決定権の尊厳」「自分らしい生活の継続」「自立支援」を基本とし、利用者や家族の意向を踏まえ、自立支援に向けた居宅サービス計画を作成。また、多種多様な関係機関や事業者と連携し、避難先等でも家族との繋がりが継続できるよう支援を行ってきた。

(1) 信頼関係の構築について

ケアプランを立案するにあたり、信頼関係を得るためコミュニケーションを深めると共に、サービス事業者と連携を密にしながら迅速な対応をしてきた。

(2) 課題を正確に捉えるについて

生活環境の変化や心配ごと・不安な点等を捉えるため、予測される課題についても、事前に検討を行ってきた。

(3) 情報提供について

必要としている、介護保険制度を含めた様々な情報を提供。(利用できるサービスなど避難先の地域資源活用等についても情報提供を行ってきた。)

(4) モニタリングを行うについて

常に状況を把握し、状態にあった支援が提供できるよう努めてきた。

モニタリングについては、訪問以外にも電話等で相談や状況等を収集し、出来る限り状況把握に努めてきた。

(5) 利用者の立場に立つについて

常に利用者とその家族の立場に立ち対応することに努めてきた。

【評価と課題】

コロナ禍ではあったが、関係機関やサービス提供事業者等と連絡体制を整え、情報の共有を図りながら、身体状況の変化や生活状況、また、家族の健康状態等についても把握を行い、より適切な対応ができるよう努めてきた。

今後、個々の介護保険給付サービス等の適正化(過剰なサービス利用になっていないか等)を図って行くことも必要となってくると思われる。

2. 具体的な施策について

《ケアマネジメントの充実》

(1) アセスメント(課題分析)について

利用者及び家族の方の希望等を把握し、解決すべき課題や日常生活に対する可能性を抽出し、それに基づき目標を立ててきた。(得られた情報はケアマネジメントの中核とし状態像を十分に把握してきた。)

(2) サービス担当者会議(ケアカンファレンス)について

利用者及び家族の方、サービス提供事業所が参加、希望や課題を確認することで、ケアチームとして共有できるとともに、利用される側も安心感を持てるようにしてきた。

(3) モニタリング(サービス実施状況の把握及び評価)について

モニタリングは継続的なアセスメントでもあり、希望や苦情を、具体的に口に出せるような関係を築いて行くとともに、同時にサービスの実施状況も確認してきた。

(4) 居宅サービス計画の見直し(再アセスメント)について

モニタリングの結果から、変更の必要性が生じた時は、内容を確認、利用者の状態の変化やニーズの把握について見直しをしてきた。

(5) 給付管理について

サービス提供事業者からサービスの実績報告を受け、内容を確認、「給付管理票」を作成し、翌月10日までに県の国民健康保険団体連合会に提出。

<令和4年度 給付管理請求一覧>

月	件数(件)	介護報酬額 (円)	月	件数(件)	介護報酬額 (円)	月	件数(件)	介護報酬額 (円)
4	46	638,090	8	52	730,860	12	47	676,430
5	47	663,590	9	50	707,410	1	46	660,350
6	49	697,460	10	52	751,280	2	45	654,270
7	50	716,830	11	50	716,540	3	45	641,850
合 計					579 件	8,254,960 円		

【評価と課題】

サービス提供事業所との連絡調整を密に行い、状況に応じた適正なサービス利用に向け調整を行っています。

県内の介護保険サービス提供事業者は、慢性的な人員不足状態が続いている状況のほか、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しながら慎重にサービスを提供している状況にある。今後も利用者や家族等の希望を受け入れながら、給付サービスの適正化を図り、介護保険以外のサービスも取り入れながら、各事業所と連絡調整を図っていきます。

3. 重点事業目標

(1) 新型コロナウイルス感染症に係る対応について

- ・ 利用者や家族に対し、感染症予防方法等についての情報提供をしてきた。
- ・ 感染の不安から、サービス利用を控えている利用者に対し、心身の状況確認、各サービス事業者と連携し安心してサービスが受けられる環境づくりに努めてきた。

【評価と課題】

利用者や家族の方、また、同居以外の家族の方に対しても、各サービス提供事業者を中心に感染予防について啓発を行ってきた。然しながら注意していても感染してしまうケースが絶たない状況にあります。引き続き感染予防に努める必要がある。

(2) 災害時リスク・アセスメントシートの作成について

- ・ 災害時想定される課題を整理し、医療機関や居住対策、避難支援等を検討。
- ・ 優先的に避難を要する利用者や安否確認を優先する方の検討。

【評価と課題】

現在、災害時のリスクについて、課題解決に向けた検討を行っている段階であり、今後、関係機関と情報共有し避難の計画作成等に繋げたい。

(3) 居住区域の福祉サービスの情報提供について

希望するサービスを把握し、居住する地域で対応可能なサービスについて、介護保険サービス以外のインフォーマルサービスを含め情報提供を行ってきた。

【評価と課題】

居住地域毎に、サービスの種類の調査を行い、適していると思われるサービスについて、適宜、情報提供を行うことができた。

(4) 毎月のモニタリング以外でも常時の状態把握について

サービス提供事業所や医療機関等と連絡調整し、本人の状態や家族の状況の把握に努めてきた。

<訪問活動内容と訪問件数>

月別	契約 アセスメント (件)	モニタリング (件)	サービス担当者会議 カンファレンス (件)	サービス調整 申請代行など (件)
4	3	43	5	8
5	0	48	7	6
6	3	47	9	8
7	4	50	6	9
8	4	43	6	8
9	1	46	8	12
10	2	59	4	10
11	2	50	7	4
12	2	49	1	9
1	2	42	8	10

2	3	42	7	17
3	4	42	6	7
計	30件	561件	74件	108件

【評価と課題】

定期的な訪問活動のほかにも、関係機関との連携を図り、利用者や家族への支援活動を展開できたが、今後、離れて暮らす家族との連携も必要と思われる。

(5) サービス事業所からの情報収集について

- ・利用者や家族の状況について、直接に接する機会が多いサービス提供事業所からの情報を元に、状況に適した支援を行うことができた。

【評価と課題】

関連機関と連携を密にすることで、状況を早く把握でき、それに応じた支援活動ができたことには、評価できている。今後も早期発見による早期解決を図っていく。

(6) 医療機関との連携について

- ・相双圏域と県北圏域の双方の入退院時調整ルールに基づき、1週間以内に情報を提出し、其々の医療機関と利用者の情報について共有を図ってきた。
- ・村内に常駐する医師と訪問看護との連携により、これまで以上に情報等について共有することができた。

【評価と課題】

- ・入退院時調整ルールについて、関係機関は概ね運用が定着し理解できていると思われるが、細部についてはこれから活用されて行くものと思われる。
- ・村内に医師がいるという安心感は、利用者や家族だけでなく、支援する介護支援専門員にも大変安心感があり心強いと感じている。

(7) 職員間の情報交換、課題の共有、相談業務の活性化を図るについて

それぞれが持っている情報を共有することによって、互いのケアマネジメント力の向上を図ってきた。

【評価と課題】

情報の共有によって知識や技術向上に繋がるため、今後も継続していく。

(8) 要介護認定調査の実施。

飯舘村の委託を受け、認定更新の要介護認定調査を実施してきた。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
在宅調査(件)	2	3	6	5	4	4	3	0	2	5	4	3	41
施設調査(件)	1	3	0	1	2	2	3	8	4	0	3	4	31
合計	3	6	6	6	6	6	6	8	6	5	7	7	72件

【評価と課題】

事前の連絡調整を行うことで、遅滞することなく認定調査を行うことができた。また、サービス利用目的ではない調査等もあることから、更新目的の聞き取りが必要ではないかと感じられる。

4. 介護支援専門員の資質・専門性の向上について

(1) 専門知識及び技術向上に努めてきた。(研修会に参加し周知徹底に努めてきた。)

飯舘村地域包括支援センター主催の地域ケア会議への参加	年間4回
原町方部介護支援専門員連絡協議会への参加	適宜
福島県介護支援専門員協会主催の専門研修(ファシリテーター)	10/11~12 2名参加
福島県社会福祉協議会主催実務研修(ファシリテーター)	11/2、11/16 各1名参加

(2) 不満や苦情があれば、迅速かつ適切な対応が図れるよう努めてきた。

訪問時、本人や家族の不安や不満等について確認し、サービス事業所へ繋げ、改善を促しながら質の向上に取り組んできた。

(3) 秘密保持厳守及び個人情報の取り扱いを適正に行ってきた。

個人情報等の取り扱いについては、慎重に対応するよう取り組んできた。

(4) 困難事例ケース検討及び新規ケースの情報を共有することで、事業所内でケアに取り

組むことができた。

【評価と課題】

新型コロナウイルス感染予防のため、研修会の多くがリモート研修に変更となったものの、通常の研修と同様に資質及び専門性の向上に努めてきた。

今年度は、研修を受ける立場だけでなく、研修会の側面から支えていく立場のファシリテーターとして、2名の主任介護支援専門員が参加できたことは経験上大であった。

5. 在宅介護への支援について

(1) 介護保険制度及びサービス内容の周知を行ってきた。

サービス利用については、利用者のニーズに合わせ、其々の居住地で希望するサービスが受けられるよう取り組んできた。

(2) 介護方法や社会資源の利用について周知を行ってきた。

介護に関わるアドバイスや認知症の対応方法等を提供。居住地での利用可能な社会資源についても説明を行ってきた。また、インターネット等を活用した介護方法のアドバイスも行ってきた。

【評価と課題】

当事業所契約者の7割以上が村内在住で、在宅サービスを利用している状況ある。

村内のサービス提供の現況は、訪問看護と福祉用具利用に関しては問題なく対応が可能となっている。しかし、その他の訪問介護や訪問入浴、通所介護については、川俣町を中心に近隣自治体の事業所に条件付きで依存している状況にあり、希望通りのサービスを受けることができない状態である。

在宅サービス利用は、その時により、需要が多くなったり無くなったりする性質のものであり、決して事業収益が見込めるものではないが、村内にサービス提供事業所があれば、サービス提供の幅や引き出しが多くなることは事実です。

村内にサービス提供事業所が無いことを「しょうがない」ではなく、地域包括支援センター等が中心となって検討し、介護保険制度だけに捉われること無く、独自のサービスや有償無償等のサービスも含め、住民が安心して生活できる方法を構築する必要があると思われる。

6. 各関係機関との連携の強化

(1) 地域包括支援センターを始め、各関係機関との連携を密にし、ニーズに沿ったケアマネジメントを行えるよう取り組んできた。

他市町関係機関との連携を行いながら、ケアマネジメントに反映できるよう取り組んできた。

(2) 困難事例の検討と改善について

困難事例については、本人や家族はもちろんのこと、地域包括支援センターや各市町のサービス提供事業者と共に連携を図り改善に向けて取り組んできた。

(3) 地域ケア会議への参加

地域ケア会議に出席し、各種機関が抱える困難な課題や解決方法などについて、意見交換を行い情報の共有を図ってきた。

【評価と課題】

居住地の各種サービス提供事業所や関係機関と連携し、支援できたことについては評価できるものと感じている。今後、利用者や家族等の生活環境等の変化に対し、どのように対応できるか、各関係機関との連携調整が重要となってくると思われる。

令和4年度 事務室事業報告

1. 基本方針について

関連各法改正等に伴う情報収集を行い、関係書類の見直しを行うと共に、適正に処理してきた。

また、人材不足が法人運営を困難なものにしているものの、支出をできるだけ減らすため、積極的に予算の見直しや補助金等の活用に取り組んできた。

2. 主な内容について

(1) 規則等の変更と書類整備

法改正や業務効率を高めるため規則等を適宜整備。

規則等	変更内容
就業規則	特別休暇等、就業関係の一部変更
臨時雇用職員管理規則	特別休暇等、就業関係の一部変更
育児・介護休業等に関する規則	法改正に基づく対象者、申出、様式等の一部変更
関係諸帳簿	内容確認、帳簿の点検と処理

(2) 後方支援

各部署が活動し易いように後方支援の役目を担う。

内容	内容
週間予定の周知	週間行事やその内容についての説明（朝のミーティング時）
説明会	就業規則等の変更点についての説明（朝のミーティング、家長会議等）
書類の整備	各種マニュアルの変更や作成の支援。（危機管理マニュアル等）

(3) 財源の維持確保

適切な予算を執行するため、各分野において予算の見直しや補助金等の活用。

内容	内容
予算の再検	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各項目の予算を見直し。（同じ物で済むものは安価な物を使用。施設側で処理できるものは自分達で行う。） ・ 書類上の遣り取りはメール等で実施。（時間、配送料金等の節約）
補助金等の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福島県結核予防事業（入居者の健診の一部補助） ・ 福島県社会福祉施設等物価高騰対策事業（電気料等高騰対策の補助） ・ 福島県被災地介護施設再開等支援事業（応援職員PR活動経費補助） ・ 働き方改革推進支援助成（就業規則の変更（ボランティア休暇の創設等）） ・ 社会福祉施設等災害復旧費補助（建物修繕） ・ 福島県介護職員処遇改善支援補助金（2月～9月まで総収入の1.4%の補助）

	<ul style="list-style-type: none"> • ふくしま産業復興雇用支援助成（令和5年度から3年間総額 被災地の安定的雇用創出等（職員雇用）） • 福島県被災地介護施設運営支援事業（被災地の施設運営の補助）
--	--

（4）人材確保

新たな広報活動、環境整備に努め人材確保に繋がる取り組み。

内 容	<ul style="list-style-type: none"> • 施設及び職員募集のPR等（ポスターの作製、就職活動ネット等に職員募集掲載） • 業務を見直し募集の幅を広げる。（直接介助と間接介助の区分、時間帯業務等）
-----	---

3. その他

担当外でも必要とする内容を伝達できるよう、適宜の事務所内での勉強会を実施。

内 容	<ul style="list-style-type: none"> • 規則変更等の説明（変更点の趣旨説明と徹底） • 担当事務内容の透明化（専用ファイルの共有化等）
-----	--

令和4年度 研修一覧

研修期間	研修者氏名	所属	研修名	研修場所	備考	開催者	内容
4月28日～	菅野 若菜	特養	高齢者施設に従事する看護職員向け新型コロナウイルス感染症対応	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	13:30～ 14:30	県高齢福祉課	感染症対策の基本・クラスター対応について
5月12日～	菅野 若菜	特養	高齢者施設に従事する看護職員向け新型コロナウイルス感染症対応(実技講習)	自治会館3階 大会議室	11:00～ 12:00	県高齢福祉課	手指衛生の手順・防護服の着脱について
5月18日～	小林 明美	特養	介護施設等における防災リーダー養成Web研修会	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	13:30～ 15:00	県高齢福祉課	水防法及び土砂災害防止法で求められる要配慮者利用者施設の取組について 他
5月18日～	菅野 明洋	特養	介護施設等における防災リーダー養成Web研修会	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	13:30～ 15:00	県高齢福祉課	水防法及び土砂災害防止法で求められる要配慮者利用者施設の取組について 他
5月18日～	木幡 佳代	特養	介護施設等における防災リーダー養成Web研修会	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	13:30～ 15:00	県高齢福祉課	水防法及び土砂災害防止法で求められる要配慮者利用者施設の取組について 他
5月26日～	細川 美裕	特養	令和4年度 社会福祉施設等職員初任者基礎研修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	13:40～ 16:30	県社会福祉協議会	社会福祉施設等の職員として心構え、利用者の尊厳・苦情と権利保護～
6月1日～	菅野 麻美	特養	令和4年度 認知症ケア研修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	120分	県老人福祉施設協議会	認知症ケアにおけるコミュニケーション
6月1日～	細川 美裕	特養	令和4年度 認知症ケア研修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	120分	県老人福祉施設協議会	認知症ケアにおけるコミュニケーション
6月8日～	齋藤 美波	特養	令和4年度 老人施設職員研修I	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	13:20～ 16:30	県社会福祉協議会	介護職場における看取りの対応
6月10日～	佐々木 裕行	特養	週休3日制導入支援事業説明会(Zoomオンライン開催)	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	10:00～ 12:00	株式会社TMC 経営支援センター 福島支店	週休3日制導入支援事業の概要説明 他
6月30日～	齋藤 真知子	特養	令和4年度 福島県社会福祉協議会 喫煙吸引等基本研修	福島県男女共生 センター	9:30～	県社会福祉協議会	講義：令和4年度 喫煙吸引等基本研修(第一号・第二号研修)
7月1日～	嶋原 やすえ	特養	令和4年度 事務長等研修	施設内研修 いいたてホーム (相談室)	120分	県老人福祉施設協議会	人を育て、人を活かす、介護事業経営のために
7月6日～	嶋原 やすえ	特養	福祉・介護職員処遇改善新加算の申請・活用オンラインセミナー	施設内研修 いいたてホーム (相談室)	120分	TMC経営支援 センター コーソナル ライティング部	新加算の解説、法改正の解説・対応
7月6日～	齋藤 真知子	特養	令和4年度 福島県社会福祉協議会 喫煙吸引等基本研修	福島県男女共生 センター	9:30～	県社会福祉協議会	講義：令和4年度 喫煙吸引等基本研修(第一号・第二号研修)
7月12日～	菅野 ゆかり	在介	令和4年度 苦情受付担当者研修	郡山コラックス熱海	10:30～ 15:30	県運営適正化委員会	苦情解決制度の仕組みと意義について 他
7月13日～	齋藤 真知子	特養	令和4年度 福島県社会福祉協議会 喫煙吸引等基本研修	福島県男女共生 センター	9:30～	県社会福祉協議会	講義：令和4年度 喫煙吸引等基本研修(第一号・第二号研修)
7月20日～	菅野 若菜 (キャンセル)	特養	令和4年度 高齢者介護施設等における感染対策	県看護会館みらい	10:00～ 16:00	県看護協会	高齢者介護施設等と医療機関の感染対策の違い 他
7月26日～	齋藤 真知子	特養	令和4年度 福島県社会福祉協議会 喫煙吸引等基本研修	福島県男女共生 センター	14:00～	県社会福祉協議会	筆記試験(修得状況の確認試験)

研修期間	研修者氏名	所属	研修名	研修場所	備考	開催者	内容	
7月28日～7月29日	2日間	高野 拓巳 (キャンセル)	特養	令和4年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員研修	福島県総合社会福祉 センター	10:00～ 16:40	県社会福祉協会	中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理 他
8月1日～8月31日	1ヶ月	介護・看護職員 全員	特養	LIFEあれこれ解説	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	85分	県老人福祉施設 協議会	LIFEあれこれ解説
8月4日～8月5日	2日間	菅野 明洋	特養	令和4年度 甲種防火管理新規講習	鹿島農村環境改善 センター	9:45～ 16:00	相馬地方 広域消防本部	消防法施行第3条第1項第1号の規定による講習
8月5日～8月5日	1日間	後藤 恒治	特養	令和4年度 介護職員研修	福島県男女共生 センター	13:30～ 16:30	県老人福祉施設 協議会	介護職員として働くために大切なこと
8月24日～8月25日	2日間	齋藤 真知子	特養	令和4年度 福島県社会福祉協議会 喫煙吸引等基本 研修	福島県男女共生 センター	9:10～	県社会福祉協議会	演習：実技試験
8月30日～8月31日	2日間	佐藤 智恵子 (キャンセル)	特養	令和4年度 高齢者権利擁護等推進事業 看護実務者 研修	福島県看護会館 みらい	10:00～ 16:00	福島県公益社団法人 福島県看護協会	介護保険制度と看護職員の役割 他
8月30日～8月30日	1日間	齋藤 美波	特養	ユニットケア新任職員対象研修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	オンライン 10:00～ 16:00	ふくしまユニット ケア協議会	ユニットケアについて
8月30日～8月30日	1日間	菅野 大喜	特養	ユニットケア新任職員対象研修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	オンライン 10:00～ 16:00	ふくしまユニット ケア協議会	ユニットケアについて
9月1日～1月31日	2日間	齋藤 真知子	特養	令和4年度 福島県社会福祉協議会 喫煙吸引等基本 研修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	8:00～	県社会福祉協議会	実地研修
9月1日～9月30日	1日間	佐藤 智恵子	特養	令和4年度 医務担当職員研修会	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	10:30～ 15:00	県老人福祉施設 協議会	高齢者施設における急変時の対応について 他
9月1日～9月30日	1日間	菅野 若菜	特養	令和4年度 医務担当職員研修会	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	10:30～ 15:00	県老人福祉施設 協議会	高齢者施設における急変時の対応について 他
9月1日～9月30日	1日間	菅野 ミサ子	特養	令和4年度 医務担当職員研修会	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	10:30～ 15:00 動画研修	県老人福祉施設 協議会	高齢者施設における急変時の対応について 他
9月6日～9月6日	1日間	菅野 ゆかり (キャンセル)	在介	原町方部介護支援専門員連絡協議会	原町区福祉会館	17:00～ 18:30	原町方部介護支援 専門員連絡協議会	介護支援専門員と医療機関とのよりよい連携と在宅看取りについて
9月6日～9月6日	1日間	真壁 成行 (キャンセル)	在介	原町方部介護支援専門員連絡協議会	原町区福祉会館	17:00～ 18:30	原町方部介護支援 専門員連絡協議会	介護支援専門員と医療機関とのよりよい連携と在宅看取りについて
9月21日～9月22日	2日間	綿川 美裕	特養	令和4年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者研修	福島県総合社会福祉 センター	10:00～ 16:40	県社会福祉協議会	福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理 他
8月1日～9月30日	1日間	菅野 大喜	特養	令和4年度 介護施設における安全対策担当者養成研 修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	動画研修 (330分)	全国老人福祉施設 協議会	制度説明と目的、介護事故の実態とリスクマネジメント 他
9月12日～9月12日	1日間	山田 義忠 (キャンセル)	監事	令和4年度 社会福祉法人監事研修	ピックバレット ふくしま1階	13:00～ 16:00	県社会福祉協議会	社会福祉法人監事が担う実務経験の基本と監事監査のポイントについて
9月12日～9月12日	1日間	佐藤 敏子 (キャンセル)	監事	令和4年度 社会福祉法人監事研修	ピックバレット ふくしま1階	13:00～ 16:00	県社会福祉協議会	社会福祉法人監事が担う実務経験の基本と監事監査のポイントについて
9月30日～9月30日	1日間	北里 真由美	特養	令和4年度特定給食施設等講習会	いいたてホーム (書面)		福島県相双保健所	給食施設における衛生管理について 他

研修期間	研修者氏名	所属	研修名	研修場所	備考	開催者	内容
10月4日～10月25日	3日間	嶋原 やすえ	特養 令和4年度 介護支援専門員更新研修	施設内研修 いいたてホーム (相談室)	8:30～ 17:30	県社会福祉協議会	実務に就く際に必要な専門的知識、技能の再修得を図ることにより 介護支援専門員の資質及び能力の保持、向上について 他
11月1日～11月2日	2日間	嶋原 やすえ	特養 令和4年度 介護支援専門員更新研修	施設内研修 いいたてホーム (相談室)	8:30～ 17:30	県社会福祉協議会	ZOOMによる演習(グループワーク)
11月15日～11月17日	3日間	嶋原 やすえ	特養 令和4年度 介護支援専門員更新研修	施設内研修 いいたてホーム (相談室)	8:30～ 17:30	県社会福祉協議会	ZOOMによる演習(グループワーク)
10月1日～10月31日	1日間	浦住 すみい	特養 令和4年度 研修企画担当者向け研修会(動画配信)	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	9:30～ 16:30	県老人福祉施設 協議会	感染症対策・事業継続計画(BCP)・人権擁護虐待防止等について 他
10月5日～10月5日	1日間	高野 拓巳	特養 安全運転管理者等講習	鹿島農村環境改善 センター	9:30～ 16:30	福島県公安委員会	安全運転管理者について 他
10月11日～10月12日	2日間	菅野 ゆかり	在介 令和4年度 福島県介護支援専門員専門研修Ⅰのファシリテーター	バルセイいざか	9:30～ 17:15	一般社団法人 福島県介護支援 専門員協会	認知症に関する事例・家族への支援の視点が必要な事例について 他
10月11日～10月12日	2日間	真壁 成行	在介 令和4年度 福島県介護支援専門員専門研修Ⅰのファシリテーター	バルセイいざか	9:30～ 17:15	一般社団法人 福島県介護支援 専門員協会	認知症に関する事例・家族への支援の視点が必要な事例について 他
10月18日～10月19日	2日間	井上 祥行 (キャンセル)	特養 令和4年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダー研修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	10:00～ 16:40	福島県社会福祉 協議会	チームリーダーとしてのキャリアデザインと自己管理他
11月1日～11月30日	1日間	北里 真由美	特養 令和4年度給食担当職員研修会(動画配信)	いいたてホーム (書面)	9:30～ 16:30	福島県社会福祉 協議会	調理におけるポイント・湿度・時間管理の重要性について 他
11月8日～11月8日	1日間	佐々木 裕行 (キャンセル)	特養 令和4年度 研修企画担当者向け研修会(動画配信) 2022年度 福島会場 TMC研修会	エルティシエラ	14:00～	(株)TMC 福島労働保険組合	図無組合の活動報告、DXのすすめ、近年の労務トラブル相談事例と 対策他
11月20日～11月20日	1日間	井上 祥行	特養 令和4年度 方部別研修会「介護技術研修」	特別養護老人ホーム リリー園	13:30～ 16:30	県老人福祉施設 協議会	ポジショニング・トランスファー 他
11月20日～11月20日	1日間	山口 明子	特養 令和4年度 方部別研修会「介護技術研修」	特別養護老人ホーム リリー園	13:30～ 16:30	県老人福祉施設 協議会	ポジショニング・トランスファー 他
11月25日～11月25日	1日間	菅野 ゆかり	在介 令和4年度 地域ケア推進会議	いちばん館 多目的ホール	13:30～ 16:30	飯館村 地域包括支援センター	地域課題の確認と共有 他
11月11日～11月25日	1日間	佐藤 智恵子	特養 県内のハイリスク施設向け新型コロナウイルス感染対策 策セミナー動画配信	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	12:50～ 16:30	県高齢福祉課	県内のハイリスク施設向け新型コロナウイルス感染対策
11月11日～11月25日	1日間	菅野 若菜	特養 県内のハイリスク施設向け新型コロナウイルス感染対策 策セミナー動画配信	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	12:50～ 16:30	県高齢福祉課	県内のハイリスク施設向け新型コロナウイルス感染対策
11月11日～11月25日	1日間	菅野 ミサ子	特養 県内のハイリスク施設向け新型コロナウイルス感染対策 策セミナー動画配信	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	12:50～ 16:30	県高齢福祉課	県内のハイリスク施設向け新型コロナウイルス感染対策
11月22日～11月22日	1日間	佐々木 裕行	特養 令和4年度社会福祉法人人事研修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	13:20～ 16:00	県社会福祉協議会	働き方改革と福祉人材の確保・育成・定着
12月1日～12月31日	1日間	介護・看護職員 全員	特養 令和4年度 高齢者虐待防止について研修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	12:50～ 16:30	県老協	～虐待を起こさない職場作りを目指して～
12月1日～12月31日	1日間	小林 明美	特養 令和4年度 機能訓練担当職員研修会	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	12:50～ 16:30	県老協	機能訓練計画の立案～ICFの理解と生活動作の診かた～

